

平成 26 年初春



市長 肥後正弘
ひご まさひろ

謹賀新年



明 けましておめでとうございます。皆様方には、健やかな気持ちで明るく希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政各般にわたり格別なるご支援・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。おかげをもちまして、市政は順調に進展しております。

さて、昨年は、例年にも増しての夏の暑さや各地での自然災害の発生など、改めて危機管理が問われる一年となりました。中でも心配しておりました新燃岳は、警戒レベルが2に引き下げられ、「安心」とまでは言い切れませんが明るい兆しとなりました。また、2020年の東京オリンピックの開催決定に我が国の復興に強い希望の灯が点り、今後の景気動向も含めて期待を寄せているところでございます。

本市におきましては、社会環境の変化、多様化する市民意識に対応するため、積極的に各事業に取り組んでいます。が、「協働」が基本との認識から「協働によるまちづくり」

を推進しています。昨年は、「小林市まちづくり基本条例」を制定し、ひとり一人がまちづくりの主体であることを再確認しました。西小林中学校区では「にっこばまちづくり協議会」が設立されたほか、吉都線100周年記念事業の盛り上がりなど施策は確実に成果を挙げており、本年も具体的実践をさらに加速してまいります。

また本年は、小林駅周辺の整備、看護医療専門学校・新学校給食センター建設の本格着工、南小学校の全面改築や小林商業高校跡地の有効活用などの事業を進めます。須木地区では、地域との協働で地区景観整備（もみじの里づくり）事業をいよいよ本格化させ、26年度末の完了を目指すほか、野尻地区におきましても市営夜川松団地（16棟）の完成、供用開始など大型プロジェクトの推進を図ります。課題である医師確保についても看護学校の設置など、できることから着手することで医師が働きやすい環境づくりに努めてまいります。

さらに進めます。協働のまちづくり。ひとり一人がまちづくりの主体となってもっと住みよい小林市へ

さらに昨年は、にしろろ定住自立圏形成推進協議会や環霧島会議といった広域連携が活発化し、一段と強化されました。北きりしま田舎物語推進協議会の農家民泊事業は、今年千人を超える修学旅行生を受け入れる予定であり、その「おもてなし」効果に期待がかかるそうです。

畑地かんがい事業は、26年度末の浜ノ瀬ダム完成により、西諸の畑を「生農地（いのちの水）」で潤す日が近づいています。日本一の宮崎牛を生産している畜産はもとより園芸、果樹などの基幹産業である農業振興を図ります。

日常生活に欠かせない福祉、健康づくり、子育て、環境保全といった各施策の充実に努め、一方で行財政改革を引き続き推進しながら、より住みよい小林市になるために全力を傾注してまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

この一年が皆様方にとりまして素晴らしい年となりますことを祈念いたしまして、新年のあいさついたします。